



せきね・じゅんこ ●昭和40年11月生まれ。西山字余所内在住。専業主婦。趣味はカラオケ。健康に気を付けながら、一日一日を楽しむよう心掛けている。

私は、鮫川村に生まれ育ちました。この四季豊かな所で、五人の子どもを授かりました。子どもたちは、小学四年生のときにスポーツ少に入団し、ソフトボールを始め、一日も休むことなく練習し、地区の方々の指導のもと、日に日に上達していきました。試合では、長男が六年生のときに滝根町で行われたあぶくま洞杯で、準優勝に輝きました。一試合一試合、本当にハラハラドキドキしながら応援していました。中学校、高校と野球部に入部し、活躍しました。次男も兄の影響を受けスポーツに入団し、高校一年生のときはショート。二年生の新人戦ではピッチャーとして、また、主将としてチ

村民【随想】リレー 174 関根順子さん 野球に感謝

1ムを引つ張り東北大会に出場。三年生の春季大会では福島県の第二代表として出場しました。二大会とも初戦で負けてしまいました。が、本当にいい試合でした。私の子どもたちは、野球部に入りいろいろなることを学びました。私たちがたくさんのことを教えてもらい、あちらこちらに応援に行かせてもらいました。子どもたちには感謝しています。 これからも元気に応援に行きたいと思っています。 野球って本当にいいものですね。 ■ 次は、前田守栄さん(赤坂中野字道少田)にバトンタッチ!

さめがわを 彩る集い 7

誰でも気軽に踊れることが魅力の一つ



鮫川村スポーツ民踊愛好会

高木モト会長/会員7名

鮫川村スポーツ民踊愛好会は、結成から三十年になります。主に、体力づくりと人の輪づくりを目的に活動しており、金澤ヤエさん(矢祭町)を講師に、月二回の練習に取り組んでいます。ほかの踊りにはないスポーツ民踊の魅力は、誰でも簡単に踊れるところ。お金をかけず気軽に始められ、スポーツ的で活発な振り付けが特徴と話します。 各地での発表会やボランティアとして「ひだまり荘」などで踊りを披露。そのときの観客の拍手などに感激し、晴れ晴れとした気持ちになると言います。また、普段着ることができないようなきれいな衣装を着られることも喜びの一つだそう。練習の合間にはお菓子などを持ち寄り、会話を楽しんでいるのだとか。チームワークがいいからこそ楽しく続けられると話してくれました。

Book

図書館の街話 図書館からおすすめの本をご紹介します 鮫川村図書館(村歴史民俗資料館内) ☎49-3106

迷子の大人 (坂井希久子著、実業之日本社) 介護の仕事も恋も宙ぶらりん、旅行もまともにしたことがない梓。ある夜ふと、特急「あずさ」に乗り込む。人っ子一人いない町をさまよいながらたどり着いた先は長野県高遠町。東京と高遠を行き来しながら自分の生き方を模索していきます。

羊毛フェルト なごみの和風マスコット (ふじたさとみ著、ブティック社) 羊毛フェルトをニードルでチクチク刺してかわいいマスコットを作ってみませんか。招きネコ、ほっこり地蔵、うさぎ雛、和菓子など和の作品がいっぱい。ほっこり和ませてくれます。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

俳句

クリスマスステール白き友笑う 中井 恒峯 木枯しにおされおされて散歩道 黒田 寿香 小鳥たち寒さ厳しい冬を耐え 小松ハル工 フクシマこそ現の黄泉よ冬支度 土 竜 庵 餅ついて田の神送り冬うらら 齋須 信子 ボランティア元氣もらって落葉道 鈴木 米子 今年程作業の遅れ未体験 北條素人坂 山きのこ食卓に出ぬさびしさは 松本 精一 りんご園若き主の直売所 山本 恵子 初雪や猫の足跡一直線 前田 縫子 雪の虹消えて山河の色失せる 山本五十鈴

短歌

一八〇センチは飛びたかた涙する孫の悔しさは中三の宝 鈴木イミ子 何となく心の曇り覚えつつ見れば テレビは亦も政争 前田 初 殊の疲れもマイクを持っては何のそ 忽ち二曲を歌いあげたり 佐藤 春枝 いつからかわが家の庭にも野の花の咲きて除るのも躊躇わせおり 須藤 幸子 撫子の壮拳は今も讃えられ野の花 まだが光りを帯びる 水野 珠子 人心の行方は知らず被曝すも捨てられぬという原発施設 関根 瑞恵

穂やかな暮らしの中に農をして健やかならむ日を入れんとす 満井 清乃 これというものは汗の賜物 坂本 伊紀 運命は己が創り出すという秘そと 鞭打つころの姜えに 一 平子 年の瀬に喪中のハガキ受け思うあの日苦渋の夫の面影 石井 幸子 巡り来ぬ大根漬けの季となりて凍える中を洗い日向に 須藤シツ工 秋深し故郷を追われし避難者のどんな思いの冬を迎える 松本 一郎 眼が悪く字は書けないのと電話にて話の続けむ時間気にせず 前田喜三子 菖空鉄塔並びし山並みに夕闇迫る 師走のゆうぐれ 藤田千代子 鉢植えの夫の紅梅蕾つけ師走の陽差し受けつつ膨らむ 関根ハナヨ 気の忙しい年の瀬迫り右左何がどうよと日毎かけあし 関根 富久 物置きに忘れられいし農機具は無表情にて過去を語らす 鷺野谷 満 書き留むる消しゆく歌友の名の七人命の侘しき師走に喪中の 板橋 源良 かつては母も短歌を詠みたりその母の形見の服にて短歌会に行く 関根キヌ子 GBの絆の結晶入賞のトロフィーを抱えて晴れの玉納め 矢吹 一二 両町の歌友と集いし短歌会関先生の歌評に実のあり 北條 平

若者の広場 No.97

Young Plaza

芳賀 俊光さん

■今、夢中になっていることは何ですか？

最近仕事でなかなかできていませんが、小学生のときから釣りが好きです。学生のときは、学校から帰ってきてからよく友達と近くの池に行き釣りをしていました。

■これから新たにやってみようことや目標はありますか？

今シーズンからスノーボードを始めたいと思っています。周りにも始めたいという人が増えています。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

やっぱり鮫川村は自然豊

かですね。静かでとても落ち着きます。村の人たちはみんないい人で、それぞれに個性があって楽しい人が多いように感じます。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

人が集まるような村になってほしいです。そのためにも、コンビニなどの店や気軽に集まれる場所が増えるといいですね。村が活気づいていけば、若い人たちも村に残るようになると思います。

次は芳賀鉄央さん（赤坂東野字唐露在住）の予定です。

鮫川村がさらに活気づいてほしい



はが・としみつ
平成3年11月11日生まれ 21歳
O型 さそり座
趣味は釣り
赤坂東野字唐露在住

▼東白川郡意見文発表会
全校生が郡内四中学校の優秀者の意見文発表を聞きまし
た。視野やものの見方を深め
ることができました。鮫川中
からは二名が発表しました。

▼SUN3プラン授業研究会
東白川郡内の各教科の先生
方が一堂に会し、教科ごとに
研究を深めました。青生野小
学校、鮫川
小学校の先
生方も参加
し、先生方、
生徒ともど
も学びを深
めることが
できました。



授業研究会

自ら学び、考え、主体的に

学校だより

(99)

鮫川中学校編

▼認知症サポートガイド

認知症キャラバンメイトの矢吹稔彦さんを講師に、二年生が認知症の病態や症状、接するときのときの心構え、自分ができていることを学びました。

「伝えたかった気持ち」
二年 緑川春香さん
「つながる」
三年 須藤真夏さん

▼書道教室

学校支援推進事業の一環として十二月四日から十三日までの期間中の四日間、各学級二回にわたり津田彰夫さんの指導を受けました。この事業は、鮫川村在住の書道の達人に学び、書道の楽しさを味わい、技術の研さんをすることを目的として行いました。地域の方との関わりを通して郷土愛の育成にもつながりました。



指導を受ける生徒

▼避難訓練

二回目の避難訓練が十二月五日に行われました。今回は実地訓練として消火活動訓練を実施。不測の事態に備える心構えを学びました。棚倉消防署鮫川分署の方々のお話を聞き、大震災の教訓を忘れることなく、災害に対して常に注意を怠らないようにしたい。こうと実感させられました。

(文・写真/鮫川中学校)

時間を見つけては練習をしているという英征さん

村

や地域の催し、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな場面で尺八を演奏している京條英征さん。
英征さんが尺八を始めたのは、三十歳のころ。小さいときから父親と一緒に浪曲を聞いていたこともあり、尺八の音色にひかれたといいます。当時、尺八をやっている友人が身近にいたことと民謡ブームがきっかけにな

ったそうです。

尺八の難しさは、穴の押さえ方や唇の形、吐く息の速さなどを微妙に変化させることで音色を調整しなくてはいけないところ。しかし、それによって繊細な音の移り変わりが表現できるところが尺八の魅力だと話します。「余韻」を楽しむ日本人の感性や感情が尺八を作り上げた師匠に教えられたという英征



さん。

「尺八をやっているのが本当によかったと思います。ボランティアで尺八を吹いているときが一番楽しいんです。演奏すると喜んでくれますし、顔も覚えてくれます」
これからは歌謡曲や演歌などと合わせた新たな演奏で、より多くの人に魅力を伝えたいと話してくれました。

むらの
名人・達人
Vol. 6



さまざまな催しで演奏を依頼され、尺八を披露する英征さん

尺八名人
京條英征さん

きょうじょう・ひでゆき/赤坂中野字巡ヶ作在住/68歳

繊細な音色の移り変わりが魅力
新たな演奏で多くの人に伝えたい